

教科	科目	授業時数	対象学年
国語	国語	5	3年

1. 学習の到達目標等

到達目標	本文全体の構造を踏まえ、作者の主張をとらえることができる。 本文全体の展開をつかみ、自然描写や人物の言動などから心情をとらえることができる。 自分の考えを正確に伝えることができる。 古典文法の用言を体系的に整理したうえで、助動詞・助詞を理解し、古文を正確に読解する力を身につける。 漢文の基礎を身につけ、書き下し文を正しくかけるようにする。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることを基本とし、必要な物を準備し、主体的に授業に参加する姿勢を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、またグループ学習において、他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることが出来る力を身に着ける。ノートは板書や教師の説明等を、丁寧な字で確実に書くようにし、復習時に要点が理解できるものを作る。 家庭学習において、授業時に出された課題等に丁寧取り組み、復習をする習慣を身に着ける
使用教科書	『国語3』（光村図書） 『新しい書写一・二・三年』（東京書籍）
使用副教材	『中学実力練成テキスト 国語3年』（文理） 『常用漢字クリア』（尚文出版） 『はじめての評論文20選』（明治書院） 『新国語便覧』（第一学習社） 『やさしく詳しい古典文法』（尚文出版） 『明説漢文』（尚文出版） 『力をつける古文』（数研出版）
評価基準	知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点に基づき、小テスト及び中間・期末テスト・提出物・授業態度などを総合的に判断して評価する。
学習内容	原語知識 ・ 常用漢字・同音異字・同音異義語の習得 ・ 抽象概念語句に馴れる 説明文・論説文 ・ 文章構成をとらえ、意味段落ごとの要約ができる。 ・ 要約した内容から、要旨をまとめることができる。 詩歌・文学的文章 ・ 登場人物の人物像をとらえることができる。 ・ 自然描写や場面展開に気付き、その意味を考えることができる。 ・ 登場人物相互の関係をとりえ、登場人物の心情をとらえる。 ・ 文章を読んだ感想や思いを、文章で正確に伝えることができる。 ・ 中世から中古の説話文・物語文・和歌の読解 ・ 文法の習得・活用して文章を読解する。 ・ 古今異義語の理解 ・ 音読・暗証 ○説話文などを導入教材として、古文の文章を本格的に読解していく。その上で、古今異義語の理解を深め、語句の知識を増やす。 また、古文の基礎となるのは音読・暗唱であるという認識を持ち、リズム感をもち文章を読解するためにも音読・暗唱を心がける。

	漢文の入門 ・語順・訓読方法・書き下し文 ○故事成語を中心に、漢文の文章に慣れる。そのための基礎となる訓読方法・語順についての基礎を学ぶ。
--	--

[illegible][illegible]

教科	科目	単位数	対象学年
社会	公民	3	3

1. 学習の到達目標等

到達目標	広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、倭が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
目標を達成するための留意点	知識に偏りすぎた指導にならないように、基本的な事項・事柄を厳選して指導内容を構成していく。生徒の主体的な学習を促し、課題を解決する能力を一層培うため、各分野において、適切な課題を設けて行う学習の充実を図る。社会的事象の特色や事象間の関連を説明する学習を通して、言語活動の充実を図る。資料を選択し活用する学習活動を重視するとともに作業的、体験的な学習の充実を図る。その際、情報モラルの指導にも配慮する。教育基本法第 14 条及び第 15 条の規定に基づき、政治及び宗教に関する教育を行う。
使用教科書	・新しい社会 公民 (東京書籍)
使用副教材	・新しい公民 (浜島書店) ・基礎をきずく公民 東京書籍版 (浜島書店)
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度 それぞれの項目に関して、授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	【公 民】 第 1 章 現代社会と私たちの生活 1 節 現代社会の特色と私たち 2 節 私たちの生活と文化 3 節 現代社会の見方や考え方 第 2 章 個人の尊重と日本国憲法 1 節 人権と日本国憲法 2 節 人権と共生社会 3 節 これからの人権保障 第 3 章 現代の民主政治と社会 1 節 現代の民主政治 2 節 国の政治の仕組み 3 節 地方自治と私たち 第 4 章 私たちの暮らしと経済 1 節 消費生活と市場経済 2 節 生産と労働 3 節 価格の働きと金融 4 節 政府の役割と国民の福祉 5 節 これからの経済と社会 第 5 章 地球社会と私たち 1 節 国際社会の仕組み 2 節 さまざまな国際問題 3 節 これからの地球社会と日本 終 章 より良い社会を目指して

2. 指導計画

[illegible]

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学①+数学Ⅰ	3(1+2)	3年

1. 学習の到達目標等

到達目標	・下記学習内容を理解させ、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。高校数学の十分な理解のために、中学校までの復習を適宜行う。 ・学力推移調査で偏差値 55 以上が取れる習熟度をめざす。
目標達成のための留意点	・高等学校数学の基礎となる数式計算・処理の技能の習熟を徹底すること。 ・論理力、数学的な表現力の育成を目指すこと。
教科書	これからの数学3(数研出版)、数学Ⅰ(数研出版)
副教材	体系数学Ⅰ代数編、体系問題集Ⅰ代数編(数研出版) 体系数学Ⅱ代数編、体系数学問題集Ⅱ代数編(数研出版) 4STEP 数学Ⅰ+A(数研出版) 解法のエウレカ数学Ⅰ・A(Gakken)
評価方法	定期考査、小テスト、提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また、課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し、総合的に評価する。
授業内容	[数学①] 中学校の復習 教科書・副教材の問題を中心に総復習を行う。ときに、発展問題も扱い、高校数学につながるような授業を行う。 [数学Ⅰ] 第1章 数と式 ・数と式の基本的な計算を学び、見通しをもって式を扱えるようにする。 ・数を実数まで拡張し、数の体系について理解を深める。また、1次不等式の解法を学び、解の意味について理解を深める。 ・論理的な思考力を伸ばし、それらを命題などの考察に生かす。背理法を用いた証明について学ぶ。 第2章 集合と命題 ・数学での「集合」の考え方について理解し、式で表現できるようにする。 ・「命題」「条件」とは何かを理解し、真偽について論理的に考えることができるようにする。 ・背理法について理解し、活用できるようにする。 第3章 2次関数 ・関数の概念を定着させ、2次関数についてグラフを用いて理解を深める。 ・2次関数の値の変化を考察し、関数の最大値・最小値を求められるようにする。 ・2次方程式、2次不等式の解の意味を2次関数のグラフを用いて理解し、2次不等式の解法を学ぶ。 第4章 図形と計量

1. 学習の到達目標等

2. 指導計画

[illegible]

1. 学習の到達目標等

2. 指導計画

[illegible]

教科	科目	单位数	対象学年
情報	情報 I	1	3 年

1. 学習の到達目標等

到達目標	1. 課題や目的に応じて情報手段を適切に活用し、必要な情報を主体的に収集・判断・処理・表現・創造し、受け手の状況をふまえて発信・伝達できる。 2. 情報手段の特性を理解と、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法が理解できる。 3. 情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画する態度を養う。
目標を達成するための留意点	・クラウドコンピューティングツール等を活用して情報の共有やタスクの管理等を行う。
使用教科書	『情報Ⅰ』（日文）
使用副教材	必要に応じて配布。
評価基準	3つの観点「知識・技能」（40％）、「思考・判断・表現」（30％）、「主体的に学習に取り組む態度」（30％）をもとに、各学期の期末試験、実技課題、提出物や授業に取り組む姿勢等を総合的に判断して評価する。
学習内容	1. 情報社会の問題解決 ・ 情報・メディアの特性 ・ 問題解決の考え方 ・ 法の重要性と意義—著作権・個人情報 ・ 情報社会と情報セキュリティ ・ 情報技術の発展による生活・社会の変化 2. コミュニケーションと情報デザイン ・ メディアとコミュニケーション ・ 情報のデジタル化 ・ 情報デザイン

2. 指導計画

[illegible]